



平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える  
神道ジャーナリズム誌

**本号の内容** 【主張】安倍と小池の統治能力を問う（木川智）：1 / 【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る―38―（仲村之菊）：3 / 花瑛塾六月活動報告：5 / 【連載】記録沖縄戦⑤ 軍民・日米それぞれの視点から（沖縄戦史研究会「棒兵隊」）：7 / 【連載】葦津珍彦と神道ジャーナリズム 「時の流れ」を読み解く⑥（鎌倉佐助）：17 / 編集後記：20

1部 1000円  
(別途送料160円)

# 安倍と小池の統治能力を問う

神苑の決意 木川智

【主張】新型コロナウイルス感染症の拡大に基づく緊急事態宣言の解除より一カ月以上の時が経った。毎号続けて巻頭に記していることだが、あらためてこのたびの感染症により亡くなられた多くの方々に哀悼の意を表すとともに、現在罹患されている方々にお見舞い申し上げる。そして医療関係者はじめ、感染症と戦う全ての関係者に感謝を伝えたい。

## ■ 新型コロナウイルス感染者数の上昇傾向について

東京を基準とすると、東京で緊急事態宣言が解除

された今年五月下旬頃は、新型コロナウイルスの新規感染確認は連日十人以下、多くても十数人程度であった。その後も六月上旬頃までは一日十数人程度で推移していたが、それ以降は増加傾向にあり、六月末頃には連日新規感染確認が五十人を越えるような状況となった。

六月中旬以降の感染確認の拡大は、ホストクラブでのクラスター発生など、(適切な言葉ではないことは承知しているが) いわゆる「夜の街」での感染拡大に伴い、歌舞伎町など繁華街でのPCR検査を徹底した結果ともいわれるが、何はともあれ非常に多

い感染確認といわねばならない。実際、オリンピック・パラリンピックの延期を決定した今年三月下旬頃、連日五十人前後の感染が確認されていたのである。数字そのものはそれと匹敵する状況といえる。一体、現状は安全であるのか否か、政府ならびに東京都は明確にする必要がある、具体的にどのような対策と見通しを有しているのか、説明をする必要があるのではないだろうか。

新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大した今年二月頃、安倍政権はあまりに無為無策であり、初動対応を誤った。その理由は、習近平の訪日と今夏のオリ・パ